

感動の場 一点

『無題』
1975 年 小川原 脩 画



暗い背景に柔らかな筆使いで人物が描かれています。赤と茶色のふんわりした髪に、血色の良い健康的な肌をした女性です。丸い襟ぐりの赤い服が若々しく華やかな印象を与え、モチーフの輪郭をぼかすことでやさしい雰囲気仕上がっています。ふっくらした手にはカーネーションが添えられ、花卉は白い絵の具で丁寧に描かれています。

1970 年代の小川原脩は、世の中が群化し都会へ都会へと向く中、取り残される内的な自分を表現するため身近な動物をモチーフにした作品を多く描きましたが、この女性像はその時代に描かれた数少ない人物画の一つです。ではこの女性は誰なのでしょう。実在の人物をモデルにしたのか、それとも小川原が想像で描いたのか、亡き母をしのぶという意味の白いカーネーションは誰かへのメッセージなのでしょうか。

1974 年に東京国立博物館でモナ・リザが展示公開され大きな話題になりました。その翌年に小川原はこの絵を描いています。小川原がこの世界一有名な人物画を意識して描いたのかはわかりませんが、モナ・リザを思わせるような黒い瞳の女性に不思議な魅力を感じるのです。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）

ソウスケ川

今回は、江戸時代の終わり頃、安政 4 年（1857）に訪れた松浦武四郎の「丁巳日誌」に記された、ソウスケ川についてです。ソウスケ川は倶知安町水道の水源「高砂水源池」から流れ出て、高砂の丘陵の手前の低地を西に流れ、国道 5 号と交差して尻別川に合流する川で、日誌には、『川口は巾十間計（約 18 間）も有り、其西岸柳・赤楊多し。（中略）是より入るに水少し温くして清冷、水底小石多し。凡五丁計（約 545 間）も屈曲して行や一軒の茅屋有。其傍に庫一ヶ所有けるが、其辺り寒塩引やチナゝを多く取乱し有る』、『むかしは人家三軒有し由なるが、皆岩内の浜へ下られ、其家皆断絶致せしが故に、只今乙名一軒のもちと成居たるよし。』、『秋は家内一同罷越、持行候塩限りを塩引とし、其残りは皆干鮭またチナゝ等に切込候。其塩引能く手配届きし節に貳百三十石目も捕し事も有る』と記されています。

武四郎がソウスケ川を訪れたときには、もともと人が住んでいた三軒の家があったものの、人が住まなくなり荒れた様子でした。岩内の乙名（集落の取りまとめ役）のアイヌの方が家族でサケを獲って干鮭や塩引鮭を作っていたようです。多い年は 13,800 尾（一石＝60 尾）も獲れるところだったようです。名前の由来はアイヌ語で『ソッキ（床 鮭床ノ義）』と呼ばれ、羊蹄山の冷涼な湧き水と川底に小石や砂が厚く堆積し、サケの産卵に適した環境だったのでしょう。

暖かい春の一日、倶知安の風景を見に出掛けませんか。

文：今井 真司（倶知安風土館 学芸補助員）

ふるさと探訪

493 回



ソウスケ川の尻別川河口
（奥に見えるのが羊蹄山）

展覧会のお知らせ

■第 1 展示室

小川原脩展「感動の場一点」

会期：開催中～ 5 月 12 日(日)

開館 25 周年記念小川原脩展「遥かなるイマージュ」

小川原脩の創作姿勢を表現した言葉「遥かなるイマージュ」。社会や自らを動物の姿に投影した作品や、自らの原風景と重なるアジアの作品群も紹介します。

会期：5 月 18 日(土)～ 9 月 23 日（月・振休）

■第 2 展示室

小山内無石 書 個展

会期：開催中～ 7 月 7 日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

工作ワークショップ「こいのぼりを作ろう、描こう」

日時：開催中～ 5 月 6 日（月・振休）9 時～ 16 時 30 分

会場：ロビー（無料）※予約不要

ギャラリー・トーク「小川原脩 遥かなるイマージュ」

日時：5 月 18 日(土) 14 時～ 14 時 30 分

会場：第 1 展示室（無料）※予約不要

講師：沼田絵美（学芸員）

■地域文化講座

開館 25 周年記念「25 年の時間と建築、そして風景」

1996 年、当館プロポーザルコンペで最優秀賞を受賞し、倶知安風土館を含めたゾーニング設計、建築・外構デザインなど美術館建設に深く関わった井端さんにお話を伺います。

日時：5 月 25 日(土) 15 時～ 16 時

会場：ロビー（無料）※予約不要

講師：井端明男さん（建築家）

倶知安風土館のお知らせ

■倶知安いきもの調査隊「セイヨウオオマルハナバチ採集調査会」

ヨーロッパからきたマルハナバチを採集します（少雨決行）。

日時：5 月 18 日(土) 10 時～ 12 時 集合：百年の森※予約不要

講師：小田桐亮（風土館職員）、宮崎守（百年の森管理人）

■ふるさと探訪「歴史の道標 春の累標山を歩く」

元々アイヌが使っていたル・ベシ・ベ（峠道）は、松浦武四郎や北海道開拓の父・島義勇も通った歴史の道標です。歌碑や『まつらの滝』を見ながら、山頂を目指します（少雨決行）。

日時：5 月 25 日(土) 8 時～ 16 時 定員：8 人 集合：倶知安風土館※要予約 参加費：250 円（保険料）

講師：古市竜太さん（マウンテンガイド・コヨーテ主宰）

予約受付：5 月 17 日(金)までに電話申込（☎ 22 - 6631）

■こいのぼり、泳いでいます

今年度も風土館前にて、こいのぼりを展示しています。こいのぼりの寄付も受け付けていますので、自宅で眠っているこいのぼり（ナイロン製）がありましたら、ぜひ風土館にお持ちください。

※損傷、破損などが激しい物、布製の物は受け付けできません

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観覧料：一般 500 円（400 円）

高校生 300 円（200 円）

小中学生 100 円（50 円）

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観覧料：一般 200 円（100 円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は 9 時～ 17 時

入館は 16 時 30 分まで

※（ ）内は 10 名以上の団体料金

5 月の休館日 毎週火曜日、展示替えのため

美術館のみ 13 日(月)～ 17 日(金)、

風土館のみ 15 日(水)～ 16 日(木)

5 日（こどもの日）は入館料無料

18 日(土)は展示会初日のため美術館観覧無料

令和 6 年度・開館 25 周年

このコラムを書かせていただくようになって 3 年目となりました。新聞のテレビ欄の裏の四コマ漫画のような、ホッと一息つける場所となれるよう心掛けていきます。引き続きよろしくお願ひします。

さて、当美術館は今年の秋に開館 25 周年を迎えます。新たな試みとして、当館初の書道展となる「小山内無石 書 個展」を第 2 展示室で実施中。また、第 1 展示室では今月から 25 周年の記念展示を開催します。

今月はさらに地域文化講座として、当館の設計に携わった建築家、井端明男さんの講演会も開催予定。

皆さんのご来館を心からお待ちしております！

館長 福原 秀和